

はじめに

「再生医療」という言葉に、皆さんはどんなイメージをおもちでしょうか？ 私としては、この五年ほどでその認知度が「確実にあがっている」手ごたえを感じていますが、実際の治療の内容や幅広さについてはもちろん、すでに再生医療が実施されていること自体あまり知られていないかもしれません。そこでまずは、再生医療について基礎的なお話をさせてください。

再生医療とは、ヒトの皮膚などの組織や細胞を用いた治療法のことです。投薬も身体を大きく傷つける手術も不要な再生医療を選択することで、従来の治療より患者さんにとって負担が少ない治療が可能になりました。

また再生医療は、全身の筋肉が衰える難病「ALS（筋萎縮性側索硬化症）」や「難治性

アトピー性皮膚炎」など、これまで根本的な治療法がなかった疾患に対しても、つぎつぎに新しい治療法を切り拓いています。

二〇二〇年夏には、ロート製薬から幹細胞を用いた新型コロナウイルス治療薬の治験（臨床試験）開始が発表されました。コロナの重症化に関わると言われるサイトカインストーム（免疫系の暴走）を抑える効果が期待されています。

日本で再生医療がにわかに脚光を浴びたのは二〇一二年、iPS細胞（人工多能性幹細胞）を開発した京都大学の山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞を受賞した直後でした。幹細胞を用いた再生医療の研究はそれ以前から行われてきましたが、iPS細胞がメディアにクローズアップされたことで、再生医療への期待が高まったのです。

その後、二〇一四年に「再生医療等の安全性の確保等に関する法律（再生医療等安全性確保法）」という法律が施行され、再生医療は用いる細胞やリスクによって第一種から第三種までに分類されました。再生医療を行うには、厚生労働省が認定した委員会で厳しい審査を受けなければなりません。

審査をパスした医療機関が厚生労働省に治療計画書を提出すると「計画番号」が与えられ、「届出した再生医療等提供機関」として、厚生労働省のホームページに掲載される仕組みです。

診療を行う医療機関を厳しく精査する一方で、厚生労働省は新規の再生医療に対する臨床試験期間を短縮して、患者さんにより早く再生医療を届けるシステムも構築しました。明らかに再生医療は「期待されている」と感じます。

また、経済産業省は再生医療産業を「世界的に成長が期待される分野」として注目しています。国内の市場規模は二〇一二年時点で九〇億円でしたが、二〇三〇年にはおよそ一兆円になると経済産業省は見込んでいるのです。

本書では再生医療の黎明期から現在までの流れをたどるとともに、私たちのクリニックで行っている再生医療について、具体的にお伝えしたいと思います。私自身は形成外科医として再生医療に二〇年ほど携わっていますが、幹細胞には未知の可能性が多く残されて

います。それだけに治療、研究のやりがいも大きく、再生医療の普及にも力を入れているところですよ。

とは言え、私は初めから再生医療に興味をもっていたわけではありません。偶然が重なって再生医療の可能性に気づき、人との出会いにも恵まれて、今ここにいます。第一章では、私がこれまでにたどってきた道について述べたいと思います。

あなたを救う培養幹細胞治療
辻晋作・著

発 行：集英社インターナショナル（発売：集英社）
定 価：880 円 (10%税込)
発売日：2021 年 8 月 6 日
I S B N：978-4-7976-8079-9

ネット書店でのご予約・ご注文は [こちらにどうぞ！](#)